

時を

染める ストール

【特集1】

茶臼原自然芸術館
宮崎県児湯郡木城町

「おならじゃないだよ」

農家の納屋のような建物に入ると、高い天井の梁から、乾燥した葉っぱが入った袋がいくつもぶら下がっている。隣には、深い海のような青い布が干してあり、その布ごしに、大きな流し台を囲む四人の姿が見える。

シンクからは、青々とした植物があふれている。一メートルほどまっすぐに伸びた茎から、手のひら大の葉っぱを、わしつつかんでよぎりとする。あつという間に裸になった茎を板に載せ、包丁で刃の角度を加減しながら、表面の皮だけ



編集部=文
text by Kotonone

河野 豊=写真(P10~P23)
photograph by Yutaka Kohn

桜が散って春が来て、雨の中で、あじさいが咲く。紅くなった葉が落ちて気温が下がり一年が終わる。当たり前のように、季節はやってきて過ぎていくけれど、同じ時は一回もないんだ。障害者がつくったストールを見て、ふと気づかされた。宮崎の里山で、岩手の高原で、一瞬の時を紡ぎ、染め、織り上げる一点もののストールを見つけました。

写真右から
インド藍染めシルクストール(青色) / 3,000円(税込)
こぶな草染めガーゼストール(黄色) / 800円(税込)
びわ染めシルクストール(朱色) / 3,000円(税込)

を削ぎ落とす。刃を何回か滑らせる
と、黄みがかった透明の繊維が出てき
た。よく見ると、髪の毛よりも細い繊
維が何本も集まっている。「触ってもいい
よ」と言われ、一本だけ裂いてみる。強
く引つ張ると、持っている手が切れそう
になる。頼りない細さからは想像もつか
ないほど強い。つるつると光ってビニル
のよう。
黙々と作業が進む中、突然大きな
音が響く。一瞬の間があつて、みんなが
一斉に笑う。一人が「おならじゃないん
だよ!」と板と刃をこすって同じ音を
出す。大きな笑い声と草の香りが部屋
中に広がった。

自然布、カラムシを紡ぐ

ここは宮崎県の西都市と木城町に
またがる茶臼原(ちやうすばる)。茶畑
と田んぼが広がり、遠くに低くなら
かな山が見える。うっそうとした木々に
囲まれて、道路から身を隠すように、
茶臼原自然芸術館は建っている。

「よく辿り着きましたね」と迎え
てくれたのは、茶臼原自然芸術館の
施設長・江原嘉成さん。はじめてここ
を訪れる人は、たいがい道に迷うら